

令和6年度京都広報賞受賞作品の概要 (別紙)

広報紙・市の部

福知山市 広報ふくちやま9月号

知事賞



(審査委員講評)

被災地に派遣された担当者さん、本当にご苦勞様でした。表紙の写真からも、その想いが伝わってきます。医療スタッフへのインタビューも、少ない文字数の中で踏み込んだ内容が表現できていて、お見事。マスメディアではなく、地域の行政広報誌だからできる、災害ジャーナリズムです。

会長賞

京田辺市 広報ほつと京たなべ12月号



(審査委員講評)

「ミライロ」の記事、たくさんの市民が登場して多彩な活動ぶりも紹介されていて、好感を持ちました。デザインも楽しげで良いのですが、もう少し整理できるかも。グッジョブカフェは、コミュニティカフェのひとつですよね？ 三山木地域まちづくり協議会は、ミライロで生まれた市民活動団体の一つ？ その辺がスッキリすると、もっと良くなります。他のページも好デザイン。

広報紙・町村の部



久御山町 広報くみやま10月1日号



(審査委員講評)

表紙込み16ページの大特集！ 力、入ってますね。登場人物、何人？ 2～3ページの集合写真、どうやって撮った？ 「まちづくり」に関わる人の特集ですけど、この特集を作るための取材そのものが、一つの「まちづくり」だと思います。担当者さん、町民のお知り合いがずいぶん増えたのではないのでしょうか。もちろん、他のページも上手にまとまっています。



京丹波町 広報京丹波228号



(審査委員講評)

ホッケー、いいですね。スポーツ写真としてよくできています。練習の様子や、彼女たちを支える人々（先生、保護者、地域のスポーツ用品店、とか？）の姿も拾っていくと、特集に厚みが出ると思います。文字のポイント数や行間に気を配ると、全体にスッキリしますよ。

写真・1枚写真の部

知事賞

福知山市
広報ふくちやま
5月号p 2, 3ページ
きら きょうぞう
(吉良 恭蔵さん)

(審査委員講評)

リニューアルした施設の広報として、間違いなく満点の写真です。各地域で施設管理存続の難しさが増加していますが、新しい「地域交流拠点」で働く人々のウェルカムアピールが逆光の暖かな光によって優しく明るく、そして楽しく表現されています。広報誌を見た人が前向きな気持ちになれる、希望に満ちたカットです。



会長賞

京丹後市
広報京丹後
246号1ページ
うめだ じゅんき
(梅田 准揮さん)

(審査委員講評)

黒にピンクが素晴らしく映えたカバーフォトです。キャッチコピーにグラデーションがかけられていることも蓮の気品を引き出しています。単なる「綺麗な花の写真」ではなく、掲載中面にしっかりとリンクしていることを評価しました。この写真を見て現地に赴いた市民がいたであろうことがわかる、力量溢れる表紙になっています。



写真・組み写真の部

知事賞

久御山町 広報くみやま 4月1日号32, 33ページ

いのうえ ゆうき
(井上 裕貴さん)



(審査委員講評)

卒園式、卒業式という限られた時間の中で、ここまで多くのバリエーションを撮影した気合いと集中力が素晴らしい。しっかりとした下準備や紙面イメージを持っていてこそ成り立つ組写真です。涙の写真が多い中で大きく扱われた右下の抱擁のカットが際立っています。この瞬間を捉えたことに撮影者の力量が表れています。

会長賞

京丹後市 広報京丹後244号18, 19ページ

おぐら あきひろ
(小倉 彬宏さん)



(審査委員講評)

緊張感のある扉をメインにした組写真で、静、動、笑顔など各写真も良いバランスで組み立てられています。特に扉写真が秀逸で、奥行きのある構図、被写界深度、ピント位置、撮影位置、動きのタイミングなども実的確です。集合写真は前の人と人の間に後の人が立つように声かけをしてみてください。

映像・自主制作の部

知事賞

与謝野町 シリーズ災害 ～台風23号から今年で20年～



(審査委員講評)

災害から20年経ち、当時の写真、映像を使い自分の街で起こった災害について改めて町民に考えるきっかけを与える今回の企画は大変良い。地元のCATV局としての使命感とスタッフの強い思いを感じ取れる番組である。当時の職員のインタビューも20年経っているのに鮮明でいかにこの時の災害が大変だったのかが分かる。20年という期間は今、町に残っている若者のほぼ全てが体験していないということ。今見ている風景しか知らない子ども達が受けたインパクトは相当大きかったと思われる。そのインパクトが防災意識へとつながることを考えるとこの番組の貢献度は計り知れない。このタイミングで職員の振り返りとともに災害時の映像も残っていて番組に出来たことは与謝野町として大きな財産である。

会長賞

亀岡市 アユモドキからはじまる 亀岡オーガニックストーリー



(審査委員講評)

映像のクオリティー、質感、テロップワークなど素晴らしい。タイトルの「オーガニックストーリー」を伝えるべく表現が出来ている。SEや現場音の入れ方などにも制作者のこだわりが強く感じられる。映像の撮影場所の選定、撮影手法から担当者がこの施策の理解度の高さや市への愛着を感じる。

また、インタビューが複数人になる場合、誰がどの立場で何を話しているのか？視聴者は混乱し分からなくなることが多いが、人物ごとに「守る人」「広める人」「伝える人」「育てる人」などキーワードテロップが出されるのでインタビューコメントも理解度が高まる。施策を映像でPRするためには何より職員の理解度が重要でその模範となる映像である。

映像・委託制作の部

知事賞

舞鶴市 Background story of グランドグルメ トリップ ～京都 舞鶴～



(審査委員講評)

東京で開催されるグルメフェアを前に料理人が生産者を訪ね、真剣なやりとりを映像化するという企画が素晴らしい。現場音の活かし方が舞鶴の空気感を伝え食材の魅力を際立たせている。生産者と料理人のやりとりは普段我々が感じることが出来ない世界観で、視聴者に「食」という入り口からこの街を訪れてみたいと思う気にさせてくれる。自治体のPR映像は、地域の魅力を自分発信ですることが多いが、違う角度、第三者の目線でPRすることでより信頼度が増す。SNS発信が主流となり、「我が街が！」とPRの押し付けが増えている傾向の中で、今回の構成の構図は他の市町村も参考にして欲しい作品だ。またイベントは事前告知の広報の重点を置きがちだが事業の成果報告も兼ねている点も良い。

会長賞

亀岡市 亀岡牛、美味しすぎて「ぎゅう」！？ 赤ちゃんも虜になる、美味しさの秘密！



(審査委員講評)

制作者が「いかにして興味を引けるか？」を意識し、こだわり抜いたことが感じられる完成度の高い作品だ。全てのカットが精査されており魅力があふれている。センスは今回の他の市町村と比べても群を抜いている。シリーズ企画は第二弾が難しいのだが見事に前作を超えてきた。赤ん坊の撮影は何より難しいが、現場でのスタッフを含めて空気づくりが良かったのだと思う。制作者がこの作品づくりを楽しんでいることが伝わってくる。何度見ても面白い。また、制作した動画をどう露出していくのかも戦略的に練られているため、全体のプロモーションとして完成度が高く府内市町村の模範となるものである。

長岡京市 広報長岡京 3月号

<府民賞> 府民から見た広報紙の読みやすさ、見やすさをWEB投票によって決定。



- | | | |
|---------------------------------|--------------------------------|--|
| 2-3 長岡京市の春を味わおう
春の特産 花菜もタケノコ | 18-19 あなたのコーナー
20-21 はぐみひろば | <今月号では>
旬を迎える長岡京市の春の枝
葉、生産者に魅力やおいしい食
べ方を聞きました。見て、体験
して、食べて、長岡京市の春を
満喫しませんか。 |
| 4-5 新生活 市役所での手続きを忘れずに | 22 スクールざらりー | |
| 6-7 地産への働きをいま一度 | 23 長岡京NOW | |
| 8-17 情報 INDEX | 裏表紙 長岡京のさりな | |



(主な意見)

- 各ページ万遍なく写真が入っているところはよいです。色分けもたくさん色が使われていて、ジャンルが分かりやすいです。すべて横文字で統一感がありました。
- 子どもの習字が載っていたり、地域の人と子どもの様子が一緒に載っていたり地域に密着しているのではないかと感じました。